泉大津市社会教育委員会議

■第１回会議の議事概要

日　　時：令和元年5月31日（金）15時00分～16時26分
場　　所：泉大津市役所2階202会議室
出　　席：車谷委員、木野委員、井上委員、岡崎委員、冨山委員、祐仙委員、藤原委員
公開の有無：公開（傍聴者：無）

議 題
１．議長・副議長の選出について
２．社会教育委員会議等平成30年度実施報告について
３．社会教育委員会議等令和元年度実施予定について
４．社会教育事業の概要について
５．社会教育事業の予算について
６．社会教育関係団体補助金について
７．生涯学習推進計画の自己評価について
８．その他
・大学連携事業について
・泉大津市図書館整備の経過報告について
・泉大津市スポーツ施設の指定管理者制度導入について
・社会教育関係組織及び担当者一覧について

議事概要
１．議長・副議長の選出について
・社会教育委員会議規則第2条の規定に基づき、社会教育委員互選の結果、議長に車谷委員、副議長に木野委員が選出された。

２．社会教育委員会議等平成30年度実施報告について
《議事進行》
・事務局より平成30年度実績報告を説明
《主な意見等の内容》
質問・意見等、特になし。

３．社会教育委員会議等令和元年度実施予定について
・事務局より令和元年度等実施予定を説明
《主な意見等の内容》
質問・意見等、特になし。

４．社会教育事業の概要について
《議事進行》
・事務局より社会教育事業の概要説明
《主な意見等の内容》
　　質問・意見等、特になし。

５．社会教育事業の予算について
《議事進行》
・事務局より社会教育事業の予算について説明
《主な意見等の内容》
　　質問・意見等、特になし。

６．社会教育関係団体補助金について
《議事進行》
・事務局より社会教育関係団体補助金について説明。
《主な意見等の内容》
　質問・意見等、特になし。

７．生涯学習推進計画の自己評価について
《議事進行》
・事務局より生涯学習推進計画の自己評価について説明した後に質疑、意見交換をおこなった。
《主な意見等の内容》
岡崎委員：親学習推進事業において、平成30年度実績に対して令和元年度目標が飛躍的に伸びているが、実施可能なのか。
事 務 局：これまでも各校園に対し、親学習事業の実施を案内しているところであり、全校園で実施できる体制をとっていきたいと考えている。
岡崎委員：昨年度においても目標であったことからすると、厳しい目標値である。
井上委員：平成30年度実績からみると、1回当たりの参加人数が10人強であることからこの状態で全校園実施していくことには疑問。
岡崎委員：実施すればいいというものではない。
井上委員：今、親自身の自覚という視点においては必要な事業だとは思うが、実現可能な目標値を立てるべきではないか。例えば1校あたりの参加人数も目標値として設定しておいてもいいのではないか。
岡崎委員：もう少し戦略的に考えると、平成30年度においても高い目標を掲げ、それが達成できなかったということであれば、それは反省材料で、ではなぜ達成できなかったのかというリサーチを行って分析をし、広報なのか構造的なものなのかというプロセスを明確にして次の事業展開を考えるべきであるにも関わらず、

それがないので飛躍があるような気がしている。

事 務 局：目標値未達成の要因については、学校園の意見も参考にしながらもう少し分析をしていきたい。

車谷委員：課題として親学習リーダーの養成を記載しているが、養成は簡単なものではないと思うが。

事 務 局：確かに簡単なものではないが、大阪府の親学習リーダー養成講習があり、その受講者を中心としたコミュニティや自主的な活動に発展させたいという考えは持っている。

木野委員：総合型地域スポーツクラブ創設支援事業における課題として助成金に頼ることなく運営できる収支の健全化を挙げているが、そのためには会員獲得が必要で、会員獲得のためには広報活動が必要。平成30年度は市関連事業に数多く参加し、広報活動をおこなってきたが、まだまだ認知度を上げていかなければならない。認知度獲得のためには、継続したクラブ運営が必須となってくるので、クラブ運営の支援は引き続き行ってほしい。

祐仙委員：必要な事業を行っていくうえでは、広報活動が重要。ＦＭいずみおおつでは、独自で市の事業を情報収集して発信して、リスナーも増えている。そういった媒体を活用してみるべきではないか。自分たちで広報していく事の限界も、一つそういったところも考えてみてはいいのではないか。

藤原委員：りぶれEBISUについては、校区外からの参加もある。小学校の隣にあった保育所が閉園になり、参加人数が減少するかと見込んでいたが毎回30人程度が参加してくれている。土曜日の午前中に習い事があった子がりぶれEBISUに行きたいから習い事のコマを変えてもらったという子どももいた。色んな意味で成果が出るようにしていきたい。

冨山委員：総合型地域スポーツクラブ創設支援事業を重点プロジェクトにするときにも言っていたが、クラブを設立してそのクラブを運営していくことは1つクラブができたということになるが、総合型地域スポーツクラブを創るのはその機能や役割に注目すべきであり、学校運動部やスポーツ実施率、子どもの居場所づくりという課題を解決していくにあたって、その筋の上に、総合型地域スポーツクラブのような仕組みを使って課題解決をしていくプロセス・機能である。
クラブ創設や活動の場を提供することが目的ではなく、総合型地域スポーツクラブの機能や役割を通して、地域課題を解決していくことが目的であり、そういう視点で総合型地域スポーツクラブを捉えなければならない。

岡崎委員：本日の報告や説明を聞いているとルーティーンになっていると感じる。同じことを繰り返せば同じ結果になる。そういったことを繰り返していることは市民にとって不利益になると考えている。時代が変われば変わるほど色んな新しい課題が生まれる。それを解決していくという大きな役割を市役所は担っているわけで、この社会教育というものはそういった課題を解決するための一つの手立てであると思う。

冨山委員は先ほど総合型地域スポーツクラブはひとつのプロセスとして捉えるべきだと話をされた。ということは社会教育を去年こうやっていたから今年もこうするということは、それはあくまでも土台でしかなく、今ある課題が一体何なのかということを毎年毎年第1回目の社会教育委員会議で社会教育委員も行政も認識し、ついては我々が持っているツールをもって共通した課題に対してどういった働きかけができるのかということを考えていく社会教育でなければいけない。2020年は東京でオリンピックが開催されるということがテレビでスポーツのことがどんどん放映される、また、同時にパラリンピックが開催される。それは当然行政が担うべき、障がい者施策をどうするのかということにも関わってきて、そこに社会教育として相乗りして、解決しなければいけない課題であるならば、そういう社会的な波というか風というか、FMいずみおおつの話があったが、そういうものに我々がもっているツールを駆使して次の一手をどう打っていくかを年間の事業計画として考えていかなければならない。

冨山委員：運動・スポーツ習慣化促進事業については、複数の部局、総合型地域スポーツクラブなどが連携してスポーツを推進していく事を議論していくテーブルについている。とかく縦割りであると批判される行政において、本当なら一緒にやらなければならない健康づくりとスポーツだとか、健康づくりとスポーツと子育て、総合型地域スポーツクラブというところが一緒になって、スポーツ実施率向上というところではあるが、動いていて、これは非常に大きな事業であると考えている。この組織を残すことが非常に大きな成果になるのではないか。横のつながり、先ほど話の合った相乗りというところがキーワードになると考える。

８．その他

・３大学連携事業について

生涯学習推進係・・・和歌山大学連携事業の報告

文化財係・・・桃山学院大学連携事業の報告

スポーツ振興係・・・大阪体育大学連携事業の報告

岡崎委員、井上委員、冨山委員より各連携事業について補足説明

・泉大津市図書館整備の経過報告について

図書館整備の経過報告について事務局より報告を行う

・泉大津市スポーツ施設の指定管理者制度導入について

スポーツ施設の指定管理者導入について事務局より説明を行う

冨山委員：社会教育委員会議でスポーツ施設の指定管理者制度導入の是非について議論があった際に欠席だったが、考え方を事前にコメントとした際にも申し上げたが、単に管理運営をさせるのではなく、これだけの施設をまとめる企業なり団体が選定されるわけであるから本市の実情、泉大津市がこれまで積み上げてきたものの延長線上にある考え方をもつ主体を選べる制度設計になるようお願いする。

例えば総合型地域スポーツクラブとどう連携し、その支援の考え方や泉大津市のスポーツ推進のプレーヤーとして活躍してもらえる企業を選べるような制度を設計してほしい。

・社会教育関係組織及び担当者一覧について事務局より報告を行う

・その他

岡崎委員：ルーティーンワークになってきてしまっている気がする。
次年度の事業に向けて、何が変えられるのか、去年・一昨年と同じことをやっていてはダメで、これだけ急速に社会が変わっている状況のなかで、新しい課題が目の前にどんどん次々と出てきて、これに対して何ができるのかということを考えながら次年度の計画を立てていきたいと思う。

車谷委員：新しい社会教育委員会議の在り方を考え直す時期に来ているのかもしれない。

岡崎委員：我々、教育を担う者としては、教育は「未来」を扱う分野であるからには、常に先手先手を打っていかなければならないのではないか。

終了16：26